

小学5年生の頃 ヒトラー青少年団が 来日<sup>らいにち</sup>—各地を回りあるホテルの 昼食会<sup>ちゆうしょくかい</sup>で ライスカレーを出したと 先生が話された

窓から風が運んでくる 涼し気な小鳥の声やら 筥<sup>かげい</sup>の水が 少しの遠さで 時々岩を打つ音などを想像して「ホテルかあ」とつぶやいたが 11月から空襲は全国に広がって行く 彼らはピカピカの匙で 日本と違う食べ方をした 静かに カチャカチャもなく—運動選手のように鍛えた…10歳から18歳のドイツの美しい青少年 愛国心一杯 凄いのだ お皿を洗う必要のないほど ペロペロペロペロなめて「ゴチソ・サーマデース」と日本語で言ったらしい「皆この節約の心を学んでほしい！」と先生がおっしゃった

はて？ 節約するほど何があったかな？ すぐには思いつかない  
日本でも 一粒のコメも1年かかると 一粒でも大切にしたら

先生：「何か質問はないかな？」—A 君：先生 ホテルやカレーライスは<敵性語>ではないですか？ 非国民<sup>ひこくみん</sup>と云われませんか

先生：「アー 英語は /ほウテル/ 日本語は /ホ テ ル/ ドイツ語は “顔が火照る” の /ホテル/ じゃから 火の国民<sup>ひ こくみん</sup>=火国民はドイツ

ツだな B 君：先生「カレーライス」は<敵性語>ですか？

先生：「 “辛れーライス” (辛いライス)」は日本語： 英語は /カリアンライス/ ドイツ語は /(デア) カリライス/ 結局 “ライス”は同盟国 ドイツで使っておるから 問題なし—では

“カレーライス”の作文を 来週提出 解散！」

田舎では時々 鶏を斃<sup>たお</sup>して 大切なひとをもてなす 男衆<sup>やいば</sup>が 刃を隠して立つ 早くも鶏は コケーココココ！と 警戒の叫び 宙を飛んで逃げる… すごい！ 結局 Xを失っても 鶏は走りつづけ 横倒しになる 切り口を下にして血抜き 一瞬熱湯に入れて 羽毛を処理する むしるのを手伝う 可哀そうな作業を誰かがやらないと 食べられないのだ

「トリ」と呼ばれる 肺の部分に毒があるのか「鶏は食うてもトリ食うな！」と教わる 殻のない玉が一つ二つ三つ 少しずつ大きくなって 卵になるのを待っている 何だか悲しい けど ガラから仕込む脂の 煌<sup>きら</sup>めく うちのカレーは絶品だ！「可哀そうだけどおいし〜い！」

ぼくの本来の仕事は 卵集めと餌づくり 4年生の時から僕の役目だ 家から L字形に 500mlほど先の河原に向かう小

川 — 水はきれいに澄んで セリと泥鰻<sup>どじょう</sup>をとって次第に遠くに行く 刻んで糠<sup>ぬか</sup>と煮干しを入れ こね回す 待ち切れなくなった鶏が “ココ ココ 此処<sup>こゝ</sup> よー!” と群がってくる

10羽の餌箱に 切り分けるように入れてゆく 卵を産んだと誇らしげに 吠え始める奴がいる 勢いがついて止まらない!  
時間があると自分から 何年も平然と続けたことが 不思議

小川はゆっくりと流れ 泥鰻<sup>どじょう</sup>が跳ねると 一瞬忍者の煙幕  
すぐまた透き通る 悪戯ネズミが捕獲機<sup>ほかくき</sup>にかかり  
沈めて来るように 祖母が云う

綺麗な水だ ネズミが手を合わせて  
澄み切った汚れのない目で 透き通ったぼくの心を見つめる 二人で見つめ合い ぼくは手を合わせた

(JULY 12 24)